

小平市立小平第四中学校「学校だより」



教育目標

- 自分で考え進んで実践する人間
- 公共心に富み情操豊かな人間
- 勤労を尊び責任を重んじる人間
- 健康でたくましい人間

四季

3月増刊号（卒業式・修了式）

～四中の季節～

令和7年3月25日発行

校長 関 勝 志

〒187-0045

小平市学園西町1-3-1

☎ 042 (341) 4344

Mail gakkou@34.kodaira.ed.jp

令和六年度 第五十九回卒業式 校長式辞（抜粋）

校長 関 勝 志

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

三年前、入学式で皆さんにお話ししたのは「平和」についてでした。

マザー・テレサさんの言葉「Peace begins with a smile.（平和は微笑みから始まります）」という言葉どおり、皆さんの笑顔は、学校を平和で楽しい場所にしてくれました。また、クラスや学年の繋がり、仲間との絆を大切にしたい三年間でした。三年生の運動会では、選手宣誓でも「私たちはライバルであり仲間です」と語り、その団結を見せてくれました。そして合唱コンクール、学年合唱「大地讃頌」に心が揺さぶられ、熱いものがこみ上げてきました。あの感動は生涯忘れることはありません。

皆さんとの思い出は何と言ってもダイコンです。真夏の太陽が照りつける中、種まきをしました。二日三日すると芽が出て、順調に育っているように見えてましたが、三週間が経ち、間引きする頃になると異変がありました。残念ながら萎れてしまったダイコンの芽もありました。その頃から、ようやくダイコン栽培に真剣に取り組み始めた人も多かったと思います。熱心に水やりや害虫駆除を行い、収穫までたどり着きました。コマツナに変更した人もいましたが、どうにか全員が収穫することができました。そして、野菜という一つの命を育て上げた苦労と感動、農家の方々への感謝の気持ちを話してくれました。ところで、ダイコンは白い部分のほとんどが土の中で育ちます。つまり根っこです。植物にとって根っこはとても重要な役割を果たしています。そして、それは人も同じです。

「夢はでっかく根は深く」

これは、詩人、相田みつをさんの言葉です。大きな夢を咲かせるためには、それを支える深い根が必要であるということ、夢を実現するためには、その土台となるしっかりとした基礎基本が大切であるということです。

皆さんは、大相撲の横綱、照ノ富士関を知っているでしょうか。今年の一月に引退しました。優勝十回という輝かしい成績は言うまでもありませんが、それ以上に「奇跡の復活」を遂げた力士です。照ノ富士関は、恵まれた体格と優れた運動能力をもち、とんとん拍子で大関にまで昇進しました。相撲の階級は、横綱を最高位として、大関、関脇、小結、前頭、十両、幕下、三段目、序二段、序の口となっています。照ノ富士関は、大関に昇進したあと、怪我と病気で苦しみ、一気に序二段まで落ちてしまいました。そのとき、誰もが引退を予感しました。照ノ富士関も引退を考えましたが、もう一度、土俵に上がりたいという強い気持ちとともに、初心にかえり基礎基本を徹底的に見直したことで、念願だった横綱に昇進することができました。そして、その「奇跡の復活」の陰には、周りの人たちの支え、家族の信頼と親方の叱咤激励があったのです。

皆さんの周りにも支えとなってくれる人たちがいます。優しい言葉をかけ寄り添ってくれる人もいれば、厳しく叱り、ときには突き放す人もいるかもしれません。形はどうあれ、あなたのことを真剣に考えてくれる人の存在はかけがえのないものです。大切にしてください。

私が皆さんに伝えたかったこと、それは挨拶の大切さです。挨拶には、礼儀やマナーなど、形として身に付けなければならぬ挨拶もありますが、本当に大切なのは、尊重や感謝、思いやりの気持ちが自然に挨拶となって表れることだと思います。自分の気持ちを素直に挨拶で伝えられる人になってください。

『卒業生を送る言葉』 在校生代表 寺島瑠奈

優しく暖かい日差しに照らされ、玉川上水がより一層輝きを増しています。桜の蕾も膨らみ始め、春の息吹が感じられる季節となりました。卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。

今、皆さんは小平四中で仲間と共に過ごしてきた三年間の日々を思い出されていることと思います。私たちが瞳を閉じてみれば皆さんとの思い出が鮮明に蘇ってきます。私たちが皆さんと出会ったのは二年前の入学式でした。初めて足を踏み入れた教室の中は不安と緊張の入り混じった空気に包まれていました。いよいよ式が始まり、体育館の扉をくぐった時、皆さんの温かく優しい眼差しが、不安でいっぱいだった胸を期待に塗りかえてくださいました。式後の教室には中学校生活の希望と期待の光が差し込んでいたのです。ほんの少し前まで小学生だった私たちにとって、皆さんはとても輝いて見え、最初から私たちの憧れの先輩でした。

運動会では、強く結ばれたクラスの絆を感じました。全員リレーでは、勝利というゴールに向かって一生懸命走る姿は、全員がこの運動会の主役のようでした。そして、応援席から身を乗り出して全力で応援する姿からは固い友情が感じられ、まさに私たちの理想の姿でした。悔しい結果に涙しつつも、最後まで全力で楽しんでいた皆さんは、私たちに勝ち負けよりも大切なものを教えてくださいました。

また、合唱コンクールの学年合唱では三年間という長い時間を共に歩んできた皆さんにしか出来ない、心動かされる合唱でした。会場いっばいに響き渡る歌声からは試行錯誤を繰り返し、高みを目指してきた練習風景が思い浮かびました。皆さんの合唱は私たちに目指すべき目標を与えてくださいました。

さらに、部活動では学年の壁を越えてコミュニケーションを大切にしてください、私たちのかけがえのない居場所が出来ました。今、私たちは部活動や委員会を引っ張る立場となり、皆さんのリーダーシップや努力がどれだけ偉大なものだったのか、感慨に浸っています。皆さんは私たちにとって憧れの存在であり、尊敬してやまない先輩でした。

そんな皆さんの中学校生活も間もなく閉じようとしています。ここからは皆さんから受けとった小平四中の伝統を私たちが、次の世代へと紡いでいきます。そして、皆さんが小平四中の卒業生であることをより一層誇れる学校にしていくことを誓います。皆さんは自信を持ってご自身の夢に向かって突き進んでください。最後に卒業生の皆さんのこれからの活躍とご多幸をお祈りし、送る言葉とさせていただきます。

『巣立ちの言葉』 卒業生代表 山崎敬斗 上垣 新 東野陽斗 関根優花 山内彩瑛 本宮澄土

玉川上水の草木や中庭の花も、希望に満ち溢れた蕾をふくらませて、未来を見つめています。

私たちは今日、この学び舎を巣立とうとしています。思い返せば3年前、私たちは期待と不安を抱え、この小平第四中学校に入学しました。

やる事が全て初めてだった1年生。慣れない環境に戸惑いながらも、新しい仲間、先生方、先輩方に支えられ、失敗を恐れずいろいろなことに挑戦したことを今でも覚えています。

初めての宿泊行事「スキー教室」。初めての仲間との共同生活。ぶつかりあったこともありましたが、仲間と絆を深めるためには必要不可欠なことでした。特にスキー後に食べた豚汁が今でも心にしみています。

2年生で行った都内巡り。班のみんなで歩けば何気ない風景も虹色に彩られました。生徒主体となって初めての行事。時間管理に悩まされながらも、自立への一歩を歩み出せたような気がします。

また、必死に打ち込んだ部活動。2年生となり、私は部長を務め、きつい練習や仲間とのぶつかり合いで何度も心が折れそうになりました。まっすぐ、ただまっすぐに。私が前だけ見ていられるのは、そこに仲間の背中が見えたから。今振り返ってみると経験してきた全てが私を強く、大きく成長させてくれました。頼りなかった部長を支えてくれた仲間たち、いつも快適な環境を提供してくださった地域の方々、先生方に本当に感謝しています。中でも顧問の先生、ミスが続いて落ち込んでしまった時、大事な試合を落とした時、いつも近くで優しい言葉をかけてくれました。また競技に限らず、人として大事なことをたくさん教えて頂きました。本当にありがとうございました。それでもまだ私たちは四中を背負っていくという大きな使命を任されるには少し甘すぎたのかもかもしれません。

生徒会活動でも、私たちは様々な体験を重ね大きく成長しました。

いよいよ四中の中心となった2年生の2学期。自分たちが新しい四中を創っていかねばならないという大きな使命を抱えることになりました。生徒会長になったとき、優柔不断な私の性格が大きな壁となって私の前に立ちふさがりました。後輩に指示を出したり、意見を伝えたりすることがなかなかうまくいきませんでした。みんなが困っている。分かっているけれど自分に自信が持てない。そんなとき助けてくれたのは仲間でした。「お前なら大丈夫。」「自信を持って。」と優しく、励ましてくれる。そんな仲間を持つことができた私は、本当に幸せです。

委員会活動の中で、勇気を振り絞った人、誰かのためを思って自分の仕事をやり遂げた人。色んな人がいました。皆さん、今座っている前や横、後ろを見てください。あの時助けてくれた仲間。助けた仲間。お互いに支え合ってきた仲間がいます。辛く苦しいことがあってもこの仲間たちがいたからこそ乗り越えることができました。こんなにあたたかく、優しい人たちが集まるなんてことは奇跡です。一期一会の出会いをありがとう。

そして迎えた中学校生活最後の運動会。「あっ。」崩れ落ちる身体。涙を目に浮かべる友達。「早くたって」と叫ぶ仲間。すべてが終わったような虚無感に襲われました。



5月。クラスでむかで競走の練習が始まりました。なかなかうまく声も足もそろわないまま、初めての学年練習を迎えることになりました。結果は完敗。その後教室に帰ってから実行委員が涙を流しました。悔しかった。その後、放課後も残り、クラスや学年、学校のために全力で準備をしている実行委員の姿を見て変わりました。いや、変わることが出来ました。自分のために頑張るのは当然で、周りの人のために頑張ることがかっこよいのだと。そうやって私が変わったあの日。私だけではなく、クラスみんなも変わった瞬間でした。

本番前日。放課後のムカデ競走の練習のあと、3学年全員で決起集会を行いました。最高学年として今年の運動会を最高のものにする。最後だから悔いを残さない。その覚悟を形とするべく臨みました。実行委員長の「がんばろぞ！」の叫びと突き上げるこぶし。その気迫に次第に引き込まれ、熱く、熱く、闘志をみなぎらせたのでした。

本番当日のムカデ競走では、全員の思いが一つになり、大空の中を竜の如く駆け巡ったのでした。一人一人が最高学年の自覚と覚悟をもって臨み、学年が一つにまとまり、3年生として、1年生、2年生に背中を語ることができました。私たちが目指していた3年生の姿に一步近づくことができたのだと思います。

そしていよいよ迎えた中学校生活最後の行事、合唱コンクール。

私は3年間指揮者を務めさせてもらいました。本来は皆を引っ張っていくためにも率先してアドバイスを行わなければならない立場ですが、中一、中二の頃の私は誰かに意見を否定されるのが怖くて自分の考えを伝えることを避けてきました。常に誰かの顔色をうかがいながら言葉を選んでいたので本当に伝えたいことが伝えられないこともありました。

しかし今年は、合唱コンクールが終わると受験という大きな試練が待っている。全員で団結して同じ目標を目指すのはこれが最後でこれから先の未来は皆それぞれ違うんだ。皆と歌えるのはこれが最後なのに後悔なんてしたくないという思いが私の背中を押してくれ嫌なことから目を背ける自分を変えるために思ったことはしっかり伝えました。嫌われるのではないかと本当はとても怖かったけれど、皆は嫌な顔をする事なく耳を傾けてくれました。なかなか思いを伝えられずもやもやする日もありましたが、皆の聞こえとしてくれる雰囲気のおかげで本音を言うことができ、そのあたたかい気持ちに何度も救われてきました。今年の合唱コンクールは一番成長できた、絆が深まった、3年間で一番輝いている思い出です。

私にとって皆と一緒にいる時間はかけがえのないもので、たくさんの勇気とたくさんの笑顔をもらいました。皆がいてくれたからこそ、私は大きく成長でき、最後まで諦めず頑張り続けることの大切さを知ることができました。困ったとき、一人で背負っている荷物を半分背負ってくれる仲間が近くにいます。

私は、信じる。私はたくさんの素敵な縁に恵まれてこの3年間の困難を乗り越えることができました。誰かがそばにいてくれることの幸せをかみしめ、新しい世界へ羽ばたいていきます。

合唱コンクールが終わり、冬の到来とともに私たちを待っていたのは受験でした。

合唱コンクールでは最優秀賞という一つの目標に向かって仲間と協力してきました。しかしそれが終わると、それぞれの目標に向かってバラバラに歩いていかなければなりません。

私には「行きたい」と強く思う高校がありました。高校生活を想像するだけで胸が高鳴りました。しかし、現実がついてこないのが悔しく、その度に「私には無理なのかな」と悲観的になっていました。「受験は団体戦」何度も言われてた言葉です。しかし一人で勉強しているときでも仲間と比べてしまい、感情がコントロールできない。それが辛くて私にとっての仲間はいつの間にかライバルに変わっていました。

私が辛いときに一番近くで支えてくれたのがお母さんとお父さんでした。お母さん、毎日塾の時間に合わせて美味しい夕食を作ってくれてありがとう。お母さんのご飯を食べる時間が大好きでした。お父さん、いつも帰りが遅いのに、早く帰ってきたときにはコンビニスイーツを買ってきてくれてありがとう。あと少し頑張ろう、と思えました。時に反抗的な態度をとってしまうこともあったけれど、心の中では伝えきれない感謝を何度もくり返していました。

どんなに疲れていても勉強しないとイケない。受験生のありがたに辛くなる毎日でした。でも学校に来れば共に戦う仲間がいました。毎朝眠そうな目をして登校する人。きっと夜遅くまで勉強していたのだろう。十分休みにも問題集を開く人。きっと一問でも多く解こうとしているのだろう。その仲間の姿を見て私だけじゃないと思い、頑張る力がみなぎってきました。ノートに友達が書いてくれた「一緒に頑張ろう」という文字を見るたびに、たとえ一人で勉強していても仲間がいる、と心強くなりました。私にとっての仲間がいなくてはならない存在へと変わりました。

不安になることは何度もありましたが近くで応援してくれる人がいたから最後まで諦めずに歩み続けることができました。人は一人では生きてゆけないように、一人で描く夢は小さいけれど、僕達はきっとあの空を超えるはず。私達は一人では生きてゆけません。沢山の人の支えられてきました。支えてくれてありがとうございました。私達はこれからもずっと決断を恐れず、歩み続けます。

本日、私たちは小平四中を卒業し、新たな一步を踏み出します。

振り返ればこの三年間は、多くの学びと成長の連続でした。そして、私にはこの3年間常に大切にしてきた言葉があります。それは「一步踏み出す勇氣」です。

新しい友人を作るために踏み出した勇氣の一步。生徒会に立候補するために踏み出した勇氣の一步。試合に敗れた悔しさから立ち上がるために踏み出した勇氣の一步、こうした小さな一步に向き合い、自分の本当の気持ちを伝えるために踏み出した勇氣の一步。こうした小さな一步の積み重ねが私の新たな道を切り拓いてくれました。

小平四中で過ごした3年間は本当にあっという間でした。最初で最後の修学旅行。私たちは思い出作りに必死でした。コロナで縮小してしまった様々な行事で、叶えられなかった青春を取り戻すかのように、全力で修学旅行を楽しみました。移動中の新幹線、お風呂を待っている時間、布団の中で友と語り合った時間。限られた時間だからこそ、私たちは1分1秒を無駄にはせず、時間とともに思い出を刻みました。

今日という日を迎えることができたのは、今まで支えてくださった、先生方と両親のおかげです。分かりやすい授業に加え、時には先生と生徒の壁を越え、私の思い出に花を添えてくれた先生方、進路や将来の不安を抱えていた私たちに常に寄り添い、自分の力で道を決める手助けをしてくださり、ありがとうございました。そして、義務教育が終わるまで、支え続けてくれたお父さん、お母さん！！いつも変わらない愛を私たちに与えてくれてありがとう。その優しさや温もりがずっと心の支えになっていました。時に喧嘩することもあったけど、それをきっかけに自分の弱さに向き合うことができました。成長した今の私たちを見てください。改めて15年間ありがとうございました。

在校生のみなさん四中の伝統はあなたたちに引き継ぎました。勇氣と自信をもって四中の伝統を守っていただきます。人生は選択の繰り返しです。きっとこれからもたくさんの選択が私たちをおそうでしょう。ですが、大切なのは選んだ道ではなく、その道に行く決断した勇氣です。私たちはこの先大きな壁にぶつかっても、その勇氣を自信と誇りに変え突き進んでいきます。三年間ありがとう四中。そしてさよなら四中。私たちは希望に満ちあふれた未来へ向かって今歩き出します。

■「心」の交流セレモニー■

3月17日(月)、卒業式の予行に続いて、1・2年生と3年生の交流セレモニーが行われました。全校生徒が一堂に会する最後の日でした。1・2年生からお祝いと感謝の気持ちを代表生徒が伝え、3年生へメッセージ「支えてくれてありがとう」を渡しました。

そして、3年生からもお礼の言葉と、1・2年生へのメッセージが渡されました。お互いの気持ちを交換し合うことができ、バトンがしっかり引き継がれました。

行事や日々の活動等を通して、クラス、学年の団結力を高めてきましたが、卒業式予行や交流セレモニーを通して、3つの学年全体が一つになり、学校全体で一体感を感じる素晴らしい時間を過ごすことができました。



■生徒の活躍■

【小平市教育委員会表彰】小平市教育委員会

○令和6年度 第62回全国中学校スキー大会 男子大回転 3D 小熊健祐

○第26回 東京都テコンドー選手権大会 2C 鴛崎悠翔

○令和6年度 第52回 関東中学校陸上競技大会 女子2年100m 2C 藤井日菜乃

○令和6年度 第48回関東中学校水泳競技大会 女子200m背泳ぎ 1B 前田結衣

○第48回東京都アンサンブルコンテスト 吹奏楽部

【体育優良生徒】東京都体育協会・東京都中学校体育連盟

3D 武田朝大 / 3A 山内彩璃

【剣道部】 第10ブロック中学校冬季剣道連錬成大会

女子団体 3位 小平四中女子チーム

2年生女子の部 3位 2E 菅野すみれ

